

松本市国際関係資料

2023年度
(令和5年度)

松 本 市

目 次

1	海外姉妹・友好都市	ページ
	長野県の海外姉妹・友好都市	2
	松本市の海外姉妹・友好都市	4
	海外姉妹・友好都市 歴代首長	5
	ソルトレークシティ (アメリカ合衆国ユタ州)	6
	カトマンズ市 (ネパール連邦民主共和国)	11
	廊坊市 (中華人民共和国河北省)	19
	グリンデルワルト村 (スイス連邦ベルン州)	27
2	海外交流都市	
	高雄市 (台湾)	35
3	便利情報	
	和暦西暦対応表	40

1 海外姉妹・友好都市

長野県の海外姉妹・友好都市

資料提供：（一財）自治体国際化協会

都市名	提携都市名	国名	提携年月日	提携理由等
長野県	ミズーリ州	アメリカ	1965年4月1日	昭和38年秋東京で開かれた日米知事会議後の長野県訪問が契機
	河北省	中国	1983年11月11日	昭和52年「日中友好長野県民の翼」の中国訪問が契機
長野市	クリアウォーター（フロリダ州）	アメリカ	1959年3月14日	昭和31年市長が渡米、ク市訪問記念にメダル贈与、これに対し感謝状を送った。
	石家庄市（河北省）	中国	1981年4月19日	地形、気候、農業が似通っていて、昭和55年に申入れをした。
上田市	寧波市（浙江省）	中国	1995年2月9日	竜洞院前住職の村上氏の永年の交流が契機。平成4年国際交流研究委員会からの提言があった。
	ブルームフィールド市郡（コロラド州）	アメリカ	2001年5月24日	平成8年から5年連続で訪れていた国際教育団体アップウィズピープルの本部があったことを契機に交流を開始した。
	ダボス町	スイス	1976年3月25日	菅平高原は50年間日本ダボスの愛称で親しまれ、ダボスに申入れをした。
岡谷市	マウント・プレザント（ミシガン州）	アメリカ	1965年6月14日	マ市で岡谷市にペンパルを持つ人が指名、申し込まれた。
飯田市	シャルルヴィルメジエール	フランス	1988年8月5日	人形劇の街同士日本ウニマの働きかけ。及びウニマ（国際人形劇連盟）事務局所在地のため。
諏訪市	ヴェルグル市/クンドル町	オーストリア	1960年9月27日	日奥協会、林元知事らの斡旋により選ばれた。
	セントルイス（ミズーリ州）	アメリカ	1974年9月23日	県姉妹関係で西沢元知事の仲介、工業がともに盛ん
	アンボワーズ	フランス	1987年3月4日	駐仏大使と交友のあった元セイコーエプソン社長の仲介
須坂市	四平市（吉林省）	中国	1994年5月12日	平成3年県日中友好協会を通じ交流要望あり。友好訪問で交流を深め、平成6年3月議会で議決
伊那市	通州（北京市）	中国	1994年11月22日	平成3年から交流開始。市議会の代表、商工会議所、農協、市民らで構成する訪問団を毎年派遣している。
駒ヶ根市	ポカラ市	ネパール	2001年4月18日	山岳観光都市としてのつながりで平成9年より交流を開始した。
大町市	インスブルック	オーストリア	1985年3月15日	スキーを通じ動物交換（ニホンカモシカ・アルプスマーモセット）をした。
	メンドシーノ（カリフォルニア州）	アメリカ	1980年5月31日	旧美麻村の文化センター創立者とメ村アートセンター創立者の仲介により交流が深まった。
飯山市	深セン市福田区（広東省）	中国	2012年7月10日	深セン外国語学校と、飯山市内中学校との交流が契機
茅野市	ロングモント（コロラド州）	アメリカ	1990年5月25日	地形、人口規模、産業構造の類似性から申し込まれた。
塩尻市	ミシヤワカ（インディアナ州）	アメリカ	1972年6月5日	昭和39年小学校児童の絵画、版画、毛筆作品を贈り姉妹校提携したことが契機
佐久市	アバロン	フランス	1976年7月14日	昭和49年仏で禅の布教者から市内知人の住職に紹介した。
	サク市	エストニア	2007年5月1日	同じ名前ということで、駐日エストニア大使の紹介で交流を開始した。
	スフバートル区（ウランバートル市）	モンゴル	2008年8月4日	平成18年「モンゴル国建国800年記念」に際して佐久市の熱気球とパイロット派遣したことがきっかけで交流を深める。

都市名	提携都市名	国名	提携年月日	提携理由等
東御市	マドラス (オレゴン州)	アメリカ	2005年6月24日	旧立科町を訪れたオレゴン市の一行にマドラス市の人があり、姉妹都市提携を希望した。
安曇野市	クラムザッハ	オーストリア	2007年11月4日	あずみ野ガラス工房をもつ旧豊科町と本場ガラス工芸の町との縁
川上村	ワトソンビル (カリフォルニア州)	アメリカ	1988年10月9日	昭和60年野菜生産先進地との交流を熱望し、米国駐在日本人農業コンサルタントに仲介を依頼
南牧村	ラ・トリニダッド町	フィリピン	2014年9月19日	農業研修生の受入れを機に交流を開始
軽井沢町	カンボス・ド・ジョルドン	ブラジル	1968年7月16日	ジ市に住む日本人が気候風土が類似していることにより紹介
	ウィスラー (ブリティッシュ・コロンビア州)	カナダ	1999年3月3日	長野五輪カーリング競技でカナダの女子が優勝、男子が準優勝したが、軽井沢町が会場になったことがきっかけ
立科町	オレゴン市 (オレゴン州)	アメリカ	1974年9月4日	昭和45年から国際学級を毎年開催、オ市からも参加
青木村	ナムチュ・バザール村	ネパール	2004年5月22日	シェルパの本拠地でもあるナ村と観光・文化・教育面で交流を希望
下諏訪町	開封市 (河南省)	中国	2002年4月22日	中国北宋時代に建設された水駆動による大型天文時計装置「水運儀象台」を平成9年、諏訪湖時の科学館「儀象堂」に復元したことを機に交流開始
富士見町	リッチモンド	ニュージーランド	1993年10月28日	人材育成海外派遣事業により、平成2年から中学生の相互派遣で交流
原村	プケコヘ区 (フランクリン市)	ニュージーランド	2002年7月26日	平成9年から始まったホームステイをきっかけに提携、野菜栽培が共通点
辰野町	ワイトモディストリクト	ニュージーランド	1995年3月30日	豊南女子短大生の留学を通じた交流とホテルの生息地同士ということが縁
飯島町	フェラーズ	ブラジル	1975年5月20日	町出身フ市在住者が仲介し、申入れ
泰阜村	ハルピン市方正県 (黒竜江省)	中国	1997年9月27日	村から送られた旧満州開拓団が終戦前後の逃避行でお世話になった地が方正県。この恩返しをしたいという声をきっかけに友好提携
大桑村	シエルビービル (イリノイ州)	アメリカ	1997年8月6日	石川島播磨重工業が両地に工場を持ち、平成5年から交流
松川村	鹿港鎮 (彰化縣)	台湾	2013年6月12日	鹿港ロータリークラブと交流のある松本西南ロータリークラブの仲介により
白馬村	レッヒ	オーストリア	2001年7月12日	平成7年から八方地区とスキーをとおしての交流が始まり、その交流が発展し村としての友好提携を実施
	オーバーヴィーゼン ター	ドイツ	2002年8月18日	平成10年の長野冬季五輪をきっかけに友好提携を実施
小谷村	マールボロウ	ニュージーランド	1991年1月16日	両市村はともにアウトバウンドスクールの分校があるため
	オタリ・セントメ ー	イギリス	1992年5月4日	オタリという名称が同じことから交流を実施
坂城町	満城県 (河北省)	中国	2000年11月3日	河北大学等により日中共同研究が同町を対象に行われたのをきっかけに提携
山ノ内町	密雲市 (北京市)	中国	2007年4月27日	県日中から勧められたことがきっかけで平成12年から交流を開始
	ベイル町 (コロラド州)	アメリカ	2018年1月25日	平成28年8月阿部長野県知事のコロラド州訪問を契機に県が仲介により
野沢温泉村	サンクト・アントン	オーストリア	1971年2月7日	オーストリアのスキー指導者が来村し指導、その出身村

松本市の海外姉妹・友好都市

1 連絡先

都 市 名	住 所	TEL/FAX/HP
ソルトレークシティ	Salt Lake City Corporation 451 South State Street Salt Lake City, UT84111 USA	TEL:1-801-535-7704 (Mayor's Office) FAX:1-801-535-6331 HP:www.slc.gov
カトマンズ市	Kathmandu Metropolitan City Bagdurbar, Kathmandu, Nepal	TEL:977-1-4231-481 FAX:977-1-4268-509 HP:www.kathmandu.gov.np
廊 坊 市	中国河北省廊坊市金光道20号	TEL:86-316-233-9390 FAX:86-316-213-9216 HP:www.lf.gov.cn
グリンデルワルト村	Gemeindeverwaltung Spillstattstrasse 2, Postfach 104 3818 Grindelwald, Switzerland	TEL:41-33-854-1414 FAX:41-33-854-1415 HP:www.grindelwald.ch

2 提携時について

都 市 名	年 月 日	代 表 者
ソルトレークシティ	昭和33（1958）年11月29日 調印ではなく、 ソ市から金製の鍵が贈られた	松本市長 降旗 徳弥 名古屋アメリカ文化センター館長 （マッカーサー駐日大使代理） スチュアート・J・ポハセック
カトマンズ市	平成元（1989）年11月17日	松本市長 和合 正治 議 長 大槻 政彦 カトマンズ市長 サラダ・プラサド・バタライ 事務次官 デリー・プラカス・ギミレ
廊 坊 市	平成7（1995）年3月21日	松本市長 有賀 正 議 長 百瀬 常雄 廊坊市長 王 高鵬 廊坊市人民代表大会常務委员会主任 任 聯飛
グリンデルワルト村	平成17（2005）年5月16日 松本市と姉妹交流継続に合意 昭和47（1972）年4月20日 旧安曇村と姉妹村提携	松本市長 菅谷 昭 議 長 渡辺 聡 グリンデルワルト村長 アンドレアス・スチューダー グリンデルワルト村書記長 フリッツ・ローナー

海外姉妹・友好都市 歴代首長

年	松本市	ソルトレークシティ (提携65周年)	カトマンズ市 (提携34周年)	廊坊市 (提携28周年)	グリンデルワルト村 (提携51周年) *
1957	降旗 徳弥 (1957～1969)	Adiel F. Stewart (1956～1959) <i>姉妹提携 (1958)</i>			
		J. Bracken Lee (1960～1971)			
1969	深沢 松美 (1969～1976)	Jake Garn (1972～1975)			<i>姉妹提携 (1972) *</i> ※旧安曇村
		Conrad B. Harrison (1975～1975)			
1976	和合 正治 (1976～1992)	Ted Wilson (1976～1985)			
		Palmer DePaulis (1985～1992)	Sharada Prasad Bhattarai (1986～1990) <i>姉妹提携 (1989)</i>		
			P. L. Singh		
1992	有賀 正 (1992～2004)	Deedee Corradini (1992～2000)	(1991～1997)	王 高鵬 (1995～1997) <i>友好提携 (1995)</i>	
			Keshav Sthapit (1997～2002)	王 輔捷 (1997～1999)	
				孫 建群 (1999～2002)	
		Rocky Anderson (2000～2008)	※2002年7月から政府派遣 Shiva Bhakta Sharma	呉 顕国 (2002～2003)	
				王 愛民 (2003～2011)	
2004	菅谷 昭 (2004～2020)	Ralph Becker (2008～2016)	Surya Sharan Regmi Surya Prasad Silwal Krishna Prasad Devkota Hem Sharma Pokharel Padam Raj Regmi Dinesh Prasad Thapaliya Narayan Gopal Malego Niranjan Baral Ganesh Rai Ananda Raj Pokharel Ganesh Rai Kedar Bahadur Adhikari Laxman Aryal Dhan Bahadur Shrestha Rudra Sing Taman		Andreas Studer (2004～2007) <i>姉妹提携 (2005)</i> ※合併による Emanuel Schläppi (2008～)
		Jackie Biskupski (2016～2020)	Bidya Sunder Shakya (2017～2022)	聶 瑞平 (2011～2013) 馮 韶慧 (2013～2016)	
				陳 平 (2016～2019)	Christian Andereg (2016～2020)
				趙 革 (2019～2020)	
2020	臥雲 義尚 (2020～)	Erin Mendenhall (2020～)	Balendra Shah (2022～)	楊 燕偉 (2020～2022)	Beat Bucher (2020～)
				李 国勇 (2022～)	
				刘 媛 (市長代理・2023～)	

ソルトレークシティの概要・市との交流

アメリカ合衆国ユタ州の州都ソルトレークシティとの姉妹都市提携は、昭和33年11月29日日本で13番目という早い時期に結ばれ、平成30年に60周年を迎えました。

戦前よりソルトレークシティと関係が深かった故村山 有氏（旧制松本中学卒）が両市を仲介し、戦後、姉妹提携運動が盛んになるにしたがって、両市の姉妹提携の機運も次第に高まり、提携に至りました。

両市の関係は、多くの市民の熱意に支えられ、2団体（アメリカ国際姉妹都市協会・国際親善都市連盟）から4度の表彰を受けています。

1 都市概要

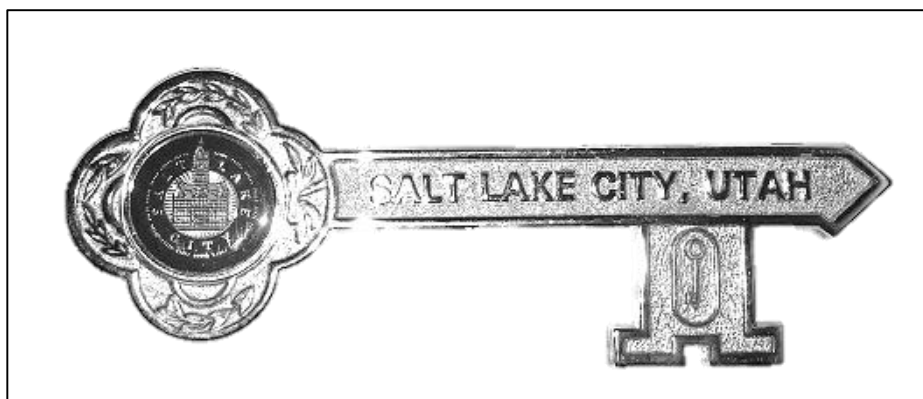
A 人 口	約20万人													
B 面 積	約287km ²													
C 平均標高	1,319m													
D 時 差	-15時間（冬-16時間）													
E 距 離	8,900km													
F 気 候	（気温=℃、降水量=mm）													
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		11.1	12.8	21.7	28.9	30.6	41.7	40.0	38.3	36.1	27.8	19.4	13.9	26.8
最 低 気 温		-8.3	-5.6	-4.4	-1.1	5.0	7.8	19.4	10.0	5.6	0.6	-3.3	-10.0	1.3
降 水 量		22.6	45.5	39.2	45.6	17.1	2.5	5.7	58.0	4.1	89.9	8.2	41.3	31.6
G 主 な 産 業	観光													
H 特 産 物	鉱産物													
I 市 長	エリン・メンデンホール（Erin Mendenhall）氏、2020.1～													

2 提携理由など

- (1) 気候・風景・地形など、自然環境が似ていること
- (2) アメリカ合衆国シアトル生まれ、旧制松本中学校卒、ソルトレークシティ名誉市民である村山有氏の仲介
- (3) 戦時中、在米日本人がソルトレークシティに大変お世話になったことから、在ソ日本人らが交流を強く望んだため。

3 合意書

ソルトレークシティについては、合意書の調印はせず、ソルトレークシティから金製の鍵を贈られたことで提携の証としています。



4 表彰

アメリカ国際姉妹都市協会（リーダーズ・ダイジェスト財団協賛）

①昭和42年

②昭和56年

③昭和58年

国際親善都市連盟

④昭和62年

5 提携・交流団体

年 月	松 本 市	ソ 市
昭和51年 7月	松本商工会議所	ソ市商業会議所
	松本青年会議所	ソ市青年会議所
	松本深志ライオンズクラブ	ローズパーク・ライオンズクラブ
	松本地区ガールスカウト	ソ市ガールスカウト
昭和51年 7月	長野放送	KSLテレビ
昭和53年 7月	信州大学	ユタ大学
昭和54年 10月	松本地区ボーイスカウト	ソ市ボーイスカウト
平成3年 5月	市民タイムス	デザレットニュース
平成10年 7月	松本市立旭町中学校	ヒルサイド・インターミディエイト・スクール

6 松本市ソルトレークシティ姉妹提携委員会概要

昭和52年3月に松本市をはじめ姉妹提携を結んだ各団体をもって姉妹都市提携委員会を組織し名誉会長に松本市長、会長に商工会議所会頭、専務理事に本郷松本商工会議所専務理事をあて、事務局を松本商工会議所内において設立されています。

官民協調方式による姉妹提携活動を推進しているが、運営の実態は民間主導型で進められ、行政財政的なサポートを主としています。

会員数 : 35 (令和6年1月現在)

7 交流事業

(1) 公式訪問団

ソルトレークシティへ			松本市へ			
昭和49年	23名	15周年記念訪問団	昭和41年	15名	市民団	
昭和51年	43名	市民団	昭和43年	15名	市民団	
昭和53年	40名	20周年記念訪問団	昭和50年	29名	市民団	
昭和58年	26名	25周年記念訪問団	昭和53年	38名	市民団	
昭和61年	36名	市民団	昭和56年	46名	市民団	
昭和63年	33名	30周年記念訪問団	昭和58年	42名	市民団	
平成3年	231名	市民団	昭和62年	30名	市民団	
平成4年	30名	市民団	平成2年	20名	市民団	
平成5年	60名	35周年記念訪問団	平成5年	60名	市民団	
平成6年	11名	市民団	平成10年	67名	長野冬季五輪視察団	
平成8年	48名	市民団	平成19年	2名	市制施行100周年記念式典	
平成10年	35名	40周年記念訪問団	平成20年	17名	50周年記念訪問団	
平成14年	34名	市民団	平成25年	7名	55周年記念訪問団	
平成15年	23名	45周年記念訪問団				
平成20年	41名	50周年記念訪問団				
平成25年	21名	55周年記念訪問団				
平成30年	29名	60周年記念訪問団				
令和5年	19名	65周年記念訪問団				
計 783名			計 388名			

(2) 市民訪問団

ソルトレークシティへ			松本市へ			
昭和41年	10名	才能教育研究会	昭和35年	18名	ユタ大 学	
昭和54年	36名	才能教育研究会	昭和47年	10名	ユタ大 学	
昭和54年	12名	ボーイスカウト	昭和49年	10名	ユタ大 学	
昭和55年	5名	農協青年団	昭和51年	10名	ユタ大 学	
昭和56年	10名	松本スキークラブ	昭和59年	22名	ユタ大 学	
昭和56年	8名	ボーイスカウト	平成3年	5名	ユタ大 学	
			平成4年	6名	ユタ大 学	
			平成13年	2名	世界岳都都市会議	
			平成20年	8名	市民団	
			平成30年	13名	市民団	
計 81名			計 104名			

(3) 学生交流

ソルトレークシティへ（国際生活スクール） 高校生を中心に夏期体験研修のためソ市派遣				松 本 市 へ		
第1回	昭和54年	48名	18日間	昭和59年	12名	高 校 生
第2回	昭和55年	36名	17日間	昭和60年	31名	中 学 生
第3回	昭和56年	24名	18日間	昭和61年	10名	中 学 生
第4回	昭和57年	22名	16日間	平成 6年	5名	ブリガムヤング大学研修生
第5回	昭和59年	24名	17日間	平成 7年	7名	ブリガムヤング大学研修生
第6回	昭和60年	23名	18日間	平成 8年	7名	ブリガムヤング大学研修生
第7回	昭和61年	30名	16日間	平成 9年	5名	ブリガムヤング大学研修生
第8回	昭和62年	36名	16日間	平成10年	3名	ブリガムヤング大学研修生
第9回	昭和63年	51名	16日間	平成11年	4名	ブリガムヤング大学研修生
第10回	平成元年	35名	15日間	平成12年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第11回	平成 2年	40名	15日間	平成13年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第12回	平成 3年	25名	15日間	平成14年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第13回	平成 4年	25名	15日間	平成15年	3名	ブリガムヤング大学研修生
第14回	平成 5年	20名	15日間	平成16年	3名	ブリガムヤング大学研修生
第15回	平成 6年	28名	15日間	平成17年	2名	ブリガムヤング大学研修生
第16回	平成 7年	28名	15日間	平成18年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第17回	平成 8年	27名	15日間	平成20年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第18回	平成 9年	28名	15日間	平成21年	13名	ウォーターフォード高校生（引率2名含む）
第19回	平成10年	18名	15日間	平成22年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第20回	平成11年	12名	15日間	平成23年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第21回	平成12年	21名	15日間	平成24年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第22回	平成14年	9名	15日間	平成25年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第23回	平成15年	10名	15日間	平成26年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第24回	平成16年	12名	15日間	平成27年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第25回	平成17年	9名	15日間	平成29年	1名	ブリガムヤング大学研修生
第26回	平成18年	13名	14日間			
第27回	平成19年	9名	15日間			
第28回	平成20年	11名	15日間			
第29回	平成21年	9名	10日間			
第30回	平成22年	16名	13日間			
第31回	平成23年	14名	13日間			
第32回	平成24年	34名	13日間			
第33回	平成25年	13名	13日間			
第34回	平成26年	15名	13日間			
第35回	平成27年	17名	13日間			
第36回	平成28年	20名	13日間			
第37回	平成29年	12名	13日間			
第38回	平成30年	14名	13日間			
計		838名		計		120名

(4) 中学校教諭ユタ大学英語短期留学派遣

昭和47年度から55年度まで10名派遣。57年度から平成15年度までは、上記国際生活スクールの引率責任者として松本市教育委員会から派遣された。

(5) 義援金について

- ・平成23年4月 東日本大震災への義援金3千ドルが届いた
 - ・同年7月 追加の5千ドルを受領
 - ・同年9月 追加の2千ドルを受領
- 合計1万ドル（約80万円）を受領。松本市の義援金受付口座へ入金済

(6) 交流の歴史

ソルトレークシティへ		松本市へ	
昭和35年	6月 下条市議会議員	昭和34年	10月 オルビンユタ大学総長
昭和37年	7月 降旗松本市長	昭和38年	4月 オルビンユタ大学総長夫妻
	10月 山岡市議会議員		10月 クライド夫妻（ユタ州知事）
昭和39年	4月 西沢長野県知事	昭和41年	4月 オルビン博士
昭和40年	1月 滝沢松本電鉄社長	昭和42年	7月 ファンズワースブリガムヤング大学教授
	1月 斎藤達雄（日本画家）	昭和43年	5月 ジョージ・L・エバンス夫妻（会社重役）
	4月 清水日体大教授（松本出身）	昭和44年	6月 ロバート・エルダー夫妻（ルポライター）
	10月 村山有ソルトレークシティ名誉市民	昭和48年	11月 レイモンド・ウノ夫妻（弁護士）
	11月 野田信大医学部教授	昭和49年	11月 ポーロ・カトー（ソ市姉妹委役員）
昭和41年	1月 篠田（陶芸家）	昭和50年	3月 ラマー・ファーンズ夫妻（ソ市動物園長）
	古市（洋画家）		7月 リール・ファーンズ夫妻（ユタ州下院議員）
	小岩井（日本画家）		8月 フレッド・ボール夫妻（ソ市商議所専務）
昭和41年	10月 鈴木才能教育研究会長		12月 ジャコブ・ガーン夫妻（米上院議員）
昭和49年	7月 深沢市長、赤羽副議長、本郷商議所専務	昭和53年	5月 テニアン夫妻（ユタ大学美術学部長）
昭和50年	11月 降旗長野放送社長		10月 オルビン博士夫妻、アシュトン商議所
昭和51年	7月 和合市長、大槻市議会副議長、		会頭、フレッド・ボール商議所専務
	河野商議所会頭、浜商議所副会頭	昭和54年	2月 アバント女史（デザレット新聞記者）
	本郷商議所専務		7月 テッド・ウィルソン市長
昭和53年	7月 降旗長野放送社長、上村助役、		9月 フレッド・ボール（ソ市姉妹委員長）
	本郷商議所専務	昭和56年	7月 マーチ・ミラー女史（ソ姉妹提委役員）
	9月 加藤信州大学学長		フレッド・ボールソ市商議所専務
昭和54年	4月 鈴木才能教育研究会長夫妻		9月 アボット夫妻（K S Lテレビ副社長）
	穂苅商議所副会頭	昭和57年	11月 スプリングマイヤー夫妻（ソ姉妹委員長）
	6月 本郷商議所専務	昭和58年	9月 アリス・カサイ（ソ姉妹委役員）
昭和56年	10月 千葉信州大学医学部講師	昭和59年	3月 レノックス・ティアニー夫妻
	11月 浜商議所会頭、本郷商議所専務、		（ユタ大学美術学部長）
	森商議所議員、小島商議所議員		3月 ピーターソン・マクワイヤー（ソ市役所部長）
昭和58年	7月 矢崎市議会議長、小林助役、	昭和62年	パルマー・デポーリス夫妻（市長）、
	本郷商議所専務		フレッド・ボール夫妻（ソ市商議所専務）
昭和61年	7月 和合市長、小原副議長、本郷商議所専務		バーバラ・レビ（ソ姉妹委員長）
昭和62年	7月 市職員坪田明男、島村晃研修派遣（2カ月）	昭和63年	10月 スプリングマイヤー家族
昭和63年	7月 和合市長、百瀬議員	平成元年	6月 リサ・カサイ女史
平成元年	5月 井上商議所会頭、本郷商議所専務、金井	平成2年	9月 パルマー・デポーリス市長
	市長公室長	平成3年	11月 フレッド・ボールソ市商議所専務
平成3年	5月 和合市長、小笠原議長、井上商議所会頭、	平成5年	9月 ゴドフリー市会議員、フレッド・ボール
	栗林商議所副会頭		ソ市商議所専務
平成4年	10月 松村助役	平成7年	11月 フレッド・ボールソ市商議所専務
平成5年	10月 松村助役、小林副議長、井上商議所会頭	平成9年	5月 トム・ウェルチS L O C会長
平成8年	5月 有賀市長夫妻、高山副議長、	平成10年	2月 ディーディー・コラディーニ市長、
	本郷商議所専務		ブライス・ジョリー市議会議長夫妻、
平成10年	7月 有賀市長夫妻、百瀬市議会議長夫妻、		パスタントリー・リッシュソ市商議所会頭他
	山口商議所副会頭		3月 ディーディー・コラディーニ市長
平成11年	4月 市職員公保靖彦研修派遣（1年）	平成11年	9月 市職員ランディー・テラー、
平成13年	1月 有賀市長		ランディー・イズベル
平成14年	2月 有賀市長夫妻、酒井市議会議長、池田	平成12年	10月 ロジャー・トンプソン市会議員夫妻
	商議所国際委員長、吉澤商議所理事	平成13年	10月 デイブ・ビューラー市議会議長夫妻
平成15年	7月 萩原助役、上條市議会議長、松下商議所	平成15年	3月 住宅公社職員ビル・ナイスウォンガー夫妻
	専務夫妻		子息
平成20年	7月 菅谷市長、大久保市議会議長	平成17年	8月 ティム・チャンプレス夫妻（ソ市企画部長）
	井上商議所会頭		令嬢
平成25年	7月 菅谷市長、太田市議会議長	平成18年	8月 ライザ・スプリングマイヤー
	井上商議所会頭		～20年7月 （国際交流アドバイザー）
平成30年	7月 菅谷市長、上條市議会議長	平成19年	4月 市職員グエン・スプリングマイヤー夫妻
	井上商議所会頭		9月 ハイムバーガー（州経済振興部アジア局長）
令和5年	7月 臥雲市長、上條市議会議長	平成20年	6月 スプリングマイヤー夫妻他6名
	赤羽商議所会頭、斎藤商議所副会頭		9月 ラルフ・ベッカー市長、ヴァン・ターナー議員夫妻
			JT・マーティン議員、ナタリー・ゴクノー
			ソ市商議所最高執行責任者、
			フレッド・ハイムバーガー（ユタ州経済開発局
			アジア部長）、エツコ・フリーマン ソ市姉妹都市
			松本代表、ジョー アン ソ市姉妹都市委員
			ケビン・アオヤギ ソ市姉妹都市委員 その他9名
		平成25年	8月 カイル・ラマルファ議長、他ソ市幹部職員等6名
		平成27年	4・8月 トモコ・モーゼス氏等8名（交流関係者）
			10月 ジェンダー・モラレス・コラゾ氏ほか1名
		平成28年	2・4月 ジョシュア・ジョー氏、ロス・チェンバレス氏、
			郁恵・チェンバレス氏等
			6・7月 アリス・カサイ氏、
			ユニス・カトウ氏ご家族一行（ポーロ・カトウ氏ご令嬢）
		平成30年	10月 グエン・スプリングマイヤー氏
			（国際生活スクール担当者、ソ市0B）一行13名
		令和5年	6月 ロス・チェンバレス氏（ソ市姉妹委員長）
			郁恵チェンバレス氏

※その他、A E T (Assistant English Teacher) としてソ市から多くの若者の受入れ実施

カトマンズ市の概要・市との交流

ネパール連邦民主共和国の首都カトマンズ市との姉妹都市提携は、昭和51年、当時の駐日大使 B. P. シュレスタ氏が来松した際、北アルプスを背景とした松本平の風景がカトマンズ盆地に似ており岳都同士の縁を感じ、打診がされたことがきっかけです。

オイスカインターナショナル中野良子総裁の仲介により、ネパール王国皇室カドカ殿下が、昭和61年松本市で開催された国際アルピニスト大会へ参加された際にも、提携の要望がされるなど、10年以上の歳月を経て、平成元年11月17日に提携となりました。

1 都市概要

A 人 口	約170万人													
B 面 積	約51km ²													
C 平均標高	1,331m (カトマンズ盆地)													
D 時 差	-3時間15分													
E 距 離	約5,000km													
F 気 候	(気温=℃、降水量=mm)													
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		23.8	25.4	28.7	32.4	32.7	31.7	31.5	31.4	31.8	31.6	24.8	23.1	29.0
最 低 気 温		1.3	1.0	7.3	8.7	19.5	17.0	19.4	19.0	17.0	10.6	6.3	2.6	10.8
降 水 量		0.0	1.1	16.6	34.5	135.6	288.3	501.6	289.9	313.0	104.0	0.0	48.0	144.3
G 特 産 物	手透き紙、セーター、カーペット、紅茶、仏具、仏像、パシュミナ製品													
H 市 長	バレンドラ・シャー(Balendra Shah)氏、2022.5～													

2 提携理由など

- (1) 日本の岳都と世界の岳都、「山と山」のつながりというわかり易く親しみやすい機縁があること
- (2) アジア圏に新しい姉妹都市を得たいとする市民世論に合致すること
- (3) 互いにアジア圏の国として、歴史・文化・宗教などに共通する親しみが多く、登山・観光・学術・ボランティアなどを通じ、市民・県民レベルの交流が育っていたこと
- (4) 距離・交通・宿泊などの便宜に問題なく、豊かな自然環境にめぐまれ、さかんな市民交流が期待できること
- (5) 双方に姉妹都市提携に対する理解と熱意があり、機が熟していること

3 合意書



合意書内容：

日本国長野県松本市とネパール王国首都カトマンズ市とは教育・文化・人的な交流及び相互の経済協力を通じて、両国間の相互理解と友好を深め、市民福祉の増進を図り、さらに、両市の親善を促進し、もって、両国及び世界の平和と繁栄に貢献することを希求し、ここに姉妹都市として提携することに合意する。 平成元年11月17日

4 提携・交流団体

現在正式に提携を結んでいる団体はありませんが、平成11年に松本市からの訪問団が姉妹都市提携10周年記念訪問をした際に訪れたバンヌバクター学校の生徒から、松本市内の学生と交流したいという要望があり、平成12年1月松本市立信明中学校が受入れを希望し、交流が始まりました。平成12年7月には、バンヌバクター学校の教員3名と生徒13名が来松し、信明中学校との交流を深めました。また、平成18年にはカトマンズ盆地の各学校から教員2名を含む17名が来松し、ホームステイなど様々な交流を行いました。

5 松本市カトマンズ市姉妹提携委員会概要

カトマンズ市と姉妹都市提携をしてから半年後の平成2年5月に、カトマンズ・ネパールを愛する多くの市民の協力により、設立が実現されました。経済的な立場、生活習慣や宗教の違いを越え、人と人とのあたたかい交流を目指して、研修生の受入れやネパール文化の紹介に協力しています。

平成24年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降カトマンズ部会として活動しています。

部会員数：個人会員 7 団体会員 17 (令和6年1月現在)

6 交流事業

(1) 公式訪問団

カトマンズ市へ			松本市へ		
平成 2年	26名	1周年記念訪問団	平成11年	6名	10周年記念訪問団
平成 3年	29名	2周年記念訪問団	平成16年	4名	15周年記念訪問団
平成 4年	17名	3周年記念訪問団	平成19年	5名	市制施行100周年記念式典
平成 6年	32名	5周年記念訪問団	平成21年	7名	20周年記念訪問団
平成 8年	25名	7周年記念訪問団			
平成11年	43名	10周年記念訪問団			
平成14年	39名	市民団			
平成18年	18名	外交関係樹立50周年記念 (15周年延期の為)			
平成23年	24名	20周年記念訪問団			
平成27年	3名	カトマンズ市救援募金贈呈			
平成28年	27名	外交関係樹立60周年記念			
平成30年	3名	カトマンズ小学校へ支援物資贈呈			
令和元年	2名	ネパール政府観光PR事業へ参加			
令和元年	19名	30周年記念訪問団			
計 307名			計 22名		

(2) 市民訪問団

カトマンズ市へ			松本市へ		
平成 2年	26名	市民訪問団	平成7年	20名	市民団
平成 2年	11名	松本ヒマラヤ友好会	平成12年	17名	学生訪問団
平成 3年	8名	オイスカ	平成13年	6名	市民団
平成 3年	8名	松本ヒマラヤ友好会	平成13年	4名	世界岳都都市会議
平成 6年	40名	提携委員会	平成18年	16名	学生訪問団
平成 7年	14名	提携委員会	平成19年	14名	学生訪問団
平成15年	20名	松本柔道協会	平成22年	20名	学生訪問団
平成17年	2名	提携委員会	平成26年	6名	市民団
平成23年	13名	松本ヒマラヤ友好会			
平成24年	13名	松本ヒマラヤ友好会			
平成26年	6名	松本ヒマラヤ友好会			
平成26年	9名	松本ヒマラヤ友好会			
平成27年	6名	松本ヒマラヤ友好会			
令和 2年	13名	松本ヒマラヤ友好会			
計 189名			計 103名		

7 交流の歴史

(1) カトマンズ市へ

年 月	主 な 内 容
平成 2年 11月	姉妹都市提携1周年記念訪問団26名（名誉団長船津市議会副議長、団長小平収入役）が訪問し、13日ホテルアンナプルナで1周年記念式典祝賀会を開催した。
平成 2年 12月	姉妹都市提携1周年記念市民訪問団26名が訪問した。
平成 2年 12月	年末年始を利用して、ヒマラヤ友好会メンバー11名が訪問し、ロールワリン山群でトレッキングを行った。
平成 3年 7月	オイスカ主催植林ボランティアに県内から8名が参加し、カトマンズ市を表敬訪問した。
平成 3年 11月	姉妹都市提携2周年記念市民訪問団29名が訪問した。
平成 3年 12月	年末年始を利用して、ヒマラヤ友好会メンバー8名が訪問し、ジョムソン・ムクチナートでトレッキングを行った。
平成 4年 11月	林市長公室長を団長に、姉妹都市提携3周年記念訪問団17名が訪問した。
平成 6年 11月	姉妹都市提携5周年記念市民訪問団32名（団長有賀松本市長）が訪問し、植林事業やレセプションで友好親善を深め、「クリーン・グリーン・ヘルシーカトマンズ」建設に向け、植林基金50万円を贈呈した。
平成 6年 12月	姉妹都市提携5周年記念事業として、松本市カトマンズ市姉妹提携委員を含む参加者40名がエベレストトレッキングを行った。
平成 7年 12月	12月29日～1月6日、姉妹提携委員を含む参加者14名がアンナプルナ・ダウラギリ方面へのトレッキングを行った。
平成 8年 10月	10月26日～11月1日、姉妹提携7周年を記念し、松村助役を団長に市民訪問団を組織し、一行25名が公式親善訪問した。
平成 11年 11月	18～24日、姉妹提携10周年を記念して、有賀市長を団長に過去最多の43名が公式訪問した。
平成 14年 1月	15～21日、カトマンズ市武道館竣工を記念して、有賀市長を団長に39名の市民訪問団が公式訪問した。
平成 15年 1月	4～8日、カトマンズ市武道館竣工1周年を記念して、第3回国際親善ネパール学生柔道大会が開催され、松本柔道協会の百瀬壱副会長を団長に学生5名を含む、20名が訪問した。
平成 17年 11月	19～23日、ネパール王国及びカトマンズ市の状況を視察するため、姉妹提携委員会は鈴木幹事（団長）、百瀬壱幹事（団員）の2名を派遣し、市役所や大使館、JICA事務所等を訪問した。
平成 18年 11月	17～22日、平成16年の姉妹提携15周年の訪問が中止になっていたため、日本ネパール外交関係樹立50周年を記念し、坪田助役を団長に18名が公式訪問した。
平成 21年 11月	姉妹提携20周年訪問は、新型インフルエンザの世界的大流行、ネパールの政情不安により中止した。
平成 23年 11月	13～17日、延期となっていた提携20周年の公式訪問を坪田副市長を団長に24名で実施した。
平成 27年 8月	18～20日、ネパール大地震（4月25日発生）で被災したカトマンズ市の復興を支援するため、松本市海外都市交流委員会と連携して募金活動に取り組み、松本市救援金（200万円）と合わせて、1,000万円をカトマンズ市政府に贈呈した。松本市政策部長、政策部職員、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長が訪問した。
平成 28年 12月	18～22日、日本ネパール外交関係樹立60周年を記念し、菅谷市長を団長に27名が公式訪問した。震災復興状況の視察や記念植樹、松本市紹介写真展を行ったほか、武道館出身のリオ五輪出場柔道選手のカトリさんと面会をした。

年 月	主 な 内 容
平成 30年 1月	20～24日、松本市海外都市交流委員会で取り組んだチャリティー活動の売上を学用品に代え、現地学校へ贈呈するため、松本市政策部長、政策部職員、松本市海外都市交流委員会カトマンズ部会長が訪問した。
令和 元年 9月	11～17日、ネパール政府観光客誘客キャンペーンPR事業へ参加ため、松本市政策部職員2名が訪問した。
令和 元年 11月	11～15日、カトマンズ市姉妹提携30周年を記念し、副市長を団長に19名が公式訪問した。カトマンズ市長表敬、松本市内中学校と交流のあるバンヌバクタ学校を訪問したほか、震災被害から復興し、再建された柔剣道場にて柔剣道大会を開催した。

(2) 松本市へ

年 月	主 な 内 容
平成 2年 9月	カトマンズ市都市計画、建設技術担当のデビンドラ・ドンゴル氏を招待し、日本の日常生活・行政の実態などを体験・研修により相互理解を深めた。
平成 4年 10月	ネパール経済ミッション（団長ネパール工業省N. K. バスネット氏）が来松し、長野県松本文化会館で「ネパール投資セミナー」を開催した。（松本側参加者 約50社）
平成 4年 11月	P. L. シン市長、B. B. マリ市議会議員が訪問した。カトマンズ市職員デビンドラ・ドンゴル氏がJICA研修のため松本市を訪問した。
平成 6年 10月	「国際砂防フォーラム in 松本」にP. L. シン市長とマナンダール議員を招聘。歓迎レセプションを開催し交流を深めた。
平成 6年 11月	アジア太平洋地域姉妹都市会議に出席したP. L. シン市長とシュレスタ議員を招聘し、地方都市視察事業を実施した。
平成 7年 4月	JICA研修員として来松した、ネパール王国森林土壌保全省のボウデル次官他2名の歓迎レセプションを開催し、交流を深めた。
平成 7年 12月	6～11日、カトマンズ市よりバルシャラム・バンダリ氏を団長とする市議会議員等20名が来松し、歓迎会や視察研修で友好親善を深めた。
平成 9年 10月	12～13日、当市で研修経験があるカトマンズ市職員デビンドラ・ドンゴル氏が研修で来日した際、当市での施設見学や歓迎会を実施し、交流を深めた。
平成 9年 11月	26～27日、横浜市での国際会議に来日したマイナリ助役とキャンデール秘書が来松し、施設見学や歓迎会で交流を深めた。
平成 10年 5月	高崎経済大学付属経済研究所主催の第29回市民開放講演会に講師として来日したケシャブ・スタピット市長ら8名が来松し交流を深めた。
平成 11年 9月	20～24日、姉妹提携10周年を記念して、スタピット市長以下6名が公式訪問した。
平成 12年 5月	屋久島で開催となった世界自然遺産会議に出席するため来日した、市長秘書のシシール・マナンダール氏が来松し、交流を深めた。
平成 12年 7月	16～22日、カトマンズ市の私立バンヌバクター校のタクリ校長を団長に、教師2名、生徒13名及び通訳2名の計17名が来松し、信明中学校との交流や市内施設見学、舞踊公演等で交流を深めた。
平成 12年 11月	5～11日、カトマンズ市建築課職員のビマール・リジャル氏が来松し、武道館設計のための研修を行った。
平成 13年 9月	18～21日、カトマンズ市議会議員6名が来松し、交流を深めた。
平成 13年 10月	6～10日、ケシャブ・スタピット市長夫妻他4名が世界岳都都市会議に出席のため来松した。

年 月	主 な 内 容
平成 14年 12月	15～25日、ナレシュ・クマール・レグミ総務部副部長はじめ、カトマンズ盆地開発事業本部（KVMP）の職員4名の計5名が研修のため来松した。
平成 16年 3月	15～18日、カトマンズ市武道館管理運営委員会のラクミ・トゥラダール氏とケシャブ・ダンゴル氏が研修のため来松した。
平成 16年 10月	17～20日、クリスナ・プラサド・デヴェコタ市長代理他3名が、姉妹提携15周年記念公式親善訪問団として来松した。
平成 18年 6月	15～16日、国内での国際会議に来日したケシャブ・スタピット元市長他1名が、来松し交流を深めた。
平成 18年 9月	4～15日、私立バンヌバクター校の教師ブッディ・カルキ氏を団長に、教師1名、市職員1名、中高生14名からなるカトマンズ市学校交流団が来松し、市内視察や信明中学校・県ヶ丘高校訪問、ホームステイ等で市民と交流を深めた。
平成 19年 2月	18～20日、カトマンズ市都市開発部長のディベンドラ・ドンゴル氏が京都での気候変動会議出席後来松し、廃棄物処理や都市計画等について研修を行った。
平成 19年 6月	22～25日、第50回全日本花いっぱい松本大会（第6回世界大会）にあわせ、ガネッシュ・プラサド・バツタライ カトマンズ市副市長代理を団長とする、カトマンズ市公式親善訪問団一行5名が来松した。
平成 19年 11月	21～27日、私立バンヌバクター校教師ブッディ・カルキ氏を団長に、選手10名、コーチ1名、引率2名計14名からなるカトマンズ市学生柔道選手団が来松し、第12回醍醐敏郎杯全国少年柔道練成大会へ出場、また信明中学校訪問等で交流を深めた。
平成 22年 2月	7～9日、ガネッシュ・ライ市長代理他計7名が、姉妹都市提携20周年記念公式親善訪問団として来松した。その後ライ市長代理は、北九州市で行われた環境会議に出席した。
平成 22年 10月	27～30日、カトマンズ市をはじめとするネパール学生訪問団、中高生14名、教師・引率6名の計20名が来松し、環境問題学習としてクリーンセンター、宮渕浄化センター等を視察し、また信明中学校を訪問し交流を深めた。
平成 26年 2月	3～5日、カトマンズ市ナヤバザー地区の事務局長、以下職員5名が来松し、クリーンセンター等を視察した。
令和 2年	姉妹提携30周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。

(3) その他

年 月	主 な 内 容
平成 4年 1月	パタン市の歯科医カルナ・サキヤ氏が、あめ市でネパール曼荼羅展を開催した。
平成 4年 3月	姉妹提携委員会からカトマンズ市役所へファックス機を贈呈した。
平成 4年 7月	ネパール王国駐日大使 B. P. ディタール博士を迎え、「姉妹提携3周年記念のつどい」を開催した。
平成 5年 7月	国宝松本城400年まつり会場内の「姉妹都市館内」へカトマンズブースを設置し、カトマンズ市の紹介に努めた。
平成 5年 11月	本年7月の南アジア大洪水で被災したカトマンズ市へ、災害見舞金を贈呈した。

年 月	主 な 内 容
平成 6年 10月	姉妹都市提携5周年記念事業として、井上アネックスパート2で開催した内田良平氏撮影のヒマラヤ・カトマンズ等の写真展を後援した。
平成 7年 6月	広島市で開催された「世界平和連帯都市市長会議・アジア太平洋地域会議」に主席したカトマンズ市代表团（ジョン副市长他3名）の歓迎レセプションに市長公室長が出席し、交流を深めた。
平成 7年 9月	12日中央公民館において、駐日ネパール大使の参加を得て、講演と映画で構成する「ネパールの夕べ」を行った。
平成 7年 10月	姉妹提携6周年を迎えて、多くの市民が撮影した写真をパネル化し、5～10日「第一回市民参加ネパール写真展」を開催した。（応募者数41名、作品数282点）
平成 9年 2月	姉妹提携7周年記念として、シタール奏者スシュマ・オマタさんらをお招きして、「シタールの夕べ」を開催。また、ケダル・バクタ・マテマ駐日ネパール大使夫妻も同日来松した。
平成 9年 9月	10～17日、ネパール民族音楽舞踊団を招聘し、松本市及び長野市において公演を行うことにより、文化交流を通じての相互理解を促進し、長野冬季五輪関連事業への協力を行った。
平成 11年 7月	19～25日、姉妹提携10周年事業の一環として節目の年を祝うとともに、市民のカトマンズ市への理解を深めていただくためにMウイングを主会場にカトマンズ・ウィークを開催した。
平成 11年 11月	19日、姉妹提携10周年記念訪問の際に行われた歓迎レセプションで、カトマンズ市への武道館建設に伴う合意書の調印がなされた。
平成 13年 2月	28日、姉妹提携10周年記念の一環として、松本市から贈呈されることとなったカトマンズ市武道館の起工式を行った。
平成 14年 1月	16日、市民からの募金等により完成したカトマンズ市武道館の竣工式を行い、橋本元首相が出席。松本市からも訪問団39名が出席した。
平成 14年 5月	17日、ネパールの国民的歌手ラム・クリシュナ・ダカール氏が来松し、信明中学校で音楽会を開催した。
平成 15年 12月	22日、カトマンズ市武道館建設事業が総務大臣表彰（世界に開かれたまち部門）を受賞した。
平成 15年 4月	1日から、カトマンズ市武道館のコーディネーターとして白井有紀氏をJICA職員としてカトマンズ市へ派遣した。
平成 15年 4月	19～20日、の2日間、Mウイング2階展示ギャラリーにおいて、写真展「王宮写真家が見たカトマンズ」を開催しキラン・マン・チトラカール氏他2名が来松した。
平成 16年 10月	13～27日、市役所3階渡り廊下において、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の協力によりネパール王国とカトマンズ市を紹介する写真展を開催した。
平成 16年 11月	9～14日、Mウイング2階展示ギャラリーにおいて、NPO法人松本ヒマラヤ友好会の協力により、ネパール王国とカトマンズ市を紹介する写真展を開催した。
平成 17年 2月	2月24日～3月1日、井上デパート催事場において開催された、NPO法人松本ヒマラヤ友好会主催の設立15周年記念展の運営補助をした。

年 月	主 な 内 容
平成 17年 3月	姉妹提携15周年を記念して、松本城に松本市とカトマンズ市の市章をあしらったピンバッジを作成し、会員他関係各所に配布した。
	昭和企業様からいただいた10万円のご寄付を元に、姉妹提携15周年の記念の意味も込めて、カトマンズ市武道館に剣道竹刀と柔道着を送付した。
	愛知県内の関係者を通じて寄付された剣道用具を中心に、姉妹提携委員会が送料を負担して、カトマンズ市武道館へ送付した。
平成 20年 2月	松本ヒマラヤ友好会の招へいにより、会主催の写真展への参加及び、カトマンズ市長賞表彰のためカトマンズ市から訪問団が13名来松。姉妹提携委員会共催による講演会等を実施した。
平成 20年 11月	27～28日、駐日ネパール特命全権大使のガネシュ・ヨンザン・タマン夫妻が来松し、松本ヒマラヤ友好会主催、姉妹提携委員会共催により、交流会と歓迎夕食会を開催した。
平成 21年 7月	4日、駐日ネパール大使館主催により、松本市において「松本市カトマンズ市姉妹提携20周年記念祝賀会」が開催された。祝賀会にあわせてカトマンズ市職員3名も来松し、6日まで市内を視察した。
平成 24年 4月	13日、駐日ネパール大使館のマダン・クマール・バッタライ特命全権任命大使が来松し、菅谷市長を表敬した。
平成 26年 10月	19日、駐日ネパール大使館のマダン・クマール・バッタライ特命全権任命大使が姉妹都市提携25周年を記念して来松、菅谷市長を表敬した。
平成 27年 5月	ネパール地震カトマンズ市救援募金（5月1日～12月31日）を松本市海外都市交流委員会と連携して、実施。募金総額 8,436,641円を市救援金の2,000,000円と合わせてカトマンズ市政府へ贈呈した。
平成 28年 8月	10～11日、駐日ネパール大使館の臨時代理大使のクリシュナ・チャンドラ・アリヤル公使参事官を第1回「山の日」記念全国大会記念式典にお招きした。
平成 28年 10月	19日、松本ヒマラヤ友好会写真展表彰式出席のため、駐日ネパール大使館の臨時代理大使のクリシュナ・チャンドラ・アリヤル公使参事官が来松した。松本市と松本市海外都市交流委員会、松本ヒマラヤ友好会の共催で歓迎会を開催した。
令和 5年 7月	駐日ネパール大使館のドゥルガ・バハドゥール・スベディ特命全権大使が来松し、臥雲市長を表敬した。

廊坊市の概要・市との交流

中華人民共和国河北省廊坊市との友好都市提携は、市民や松本日中友好協会からの要望などがきっかけとなり進められました。平成6年には、松本市中国友好都市調査団が派遣され候補となった3都市から廊坊市が選ばれ、平成7年3月21日に提携となりました。

提携後、相互の訪問や廊坊市から研修生の受入れ等を実施しています。

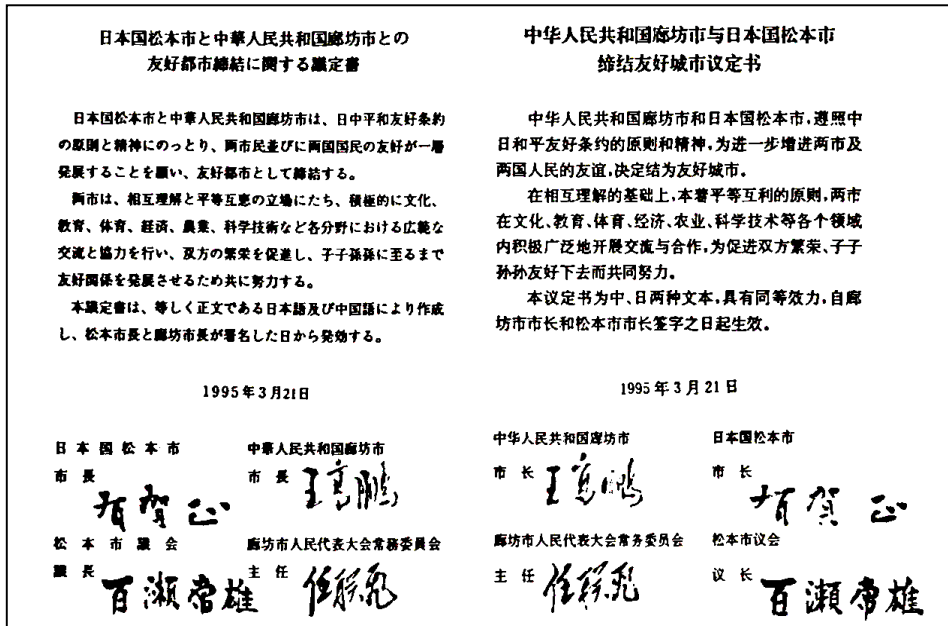
1 都市概要

A 人 口	約492万人													
B 面 積	約6,429km ²													
C 平 均 標 高	13.8m													
D 時 差	-1時間													
E 距 離	約1,900km													
F 気 候	(気温=℃、降水量=mm)													
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		8.6	25.6	24.8	27.9	32.9	37.3	34.2	33.8	31.1	23.9	18.4	13.9	26.0
最 低 気 温		-19.6	-8.9	-3.4	12.3	3.9	11.9	17.2	17.4	13.6	-0.2	-5.5	-11.6	2.2
降 水 量		0.8	17.6	21.2	1.6	16.9	39.8	244.6	137.9	141.3	48.1	19.7	3.3	57.7
G 主 な 産 業	情報産業、ビッグデータクラウドストレージ、バイオ医薬品、空港物流、観光業													
H 特 産 物	小豆、梨、メロン、なつめ、ピータン、いちご、首飾り													
I 市 長 (代理)	刘 媛 (リュウ エン) 氏、2023.7~													

2 提携理由など

- (1) 今までの海外都市交流の経験から、中国の中心都市である北京市にできるだけ近い都市を選定することで、経済的にも日程上からも有効に中国滞在ができること
- (2) 廊坊市は、内陸に立地した軽工業、機械工業が盛んで、松本市の産業形態と類似点が多く民間の経済投資の可能性を秘めており、日本からの進出企業も多く、交流を進める上で心強い支えとなること
- (3) 松本市が「教育文化都市」を標榜しているのに対し、廊坊市は「科学研究・文化都市」を標榜していること
- (4) 廊坊市のある河北省は、長野県と友好関係を結んでいること

3 議定書



議定書内容：

日本国松本市と中華人民共和国廊坊市は、日中平和友好条約の原則と精神にのっとり、両市民並びに両国国民の友好がいつそう発展することを願い、友好都市として締結する。

両市は、相互理解と平等互恵にたち、積極的に文化、教育、体育、経済、農業、科学、技術など各分野における広範な交流と協力をを行い、双方の繁栄を促進し、子々孫々に至るまで友好関係を発展させるために共に努力する。

本議定書は、等しく正文である日本語及び中国語により作成し、松本市長と廊坊市長が署名した日から発効する。 平成7年3月21日

	日本国松本市		中華人民共和国廊坊市
市 長	有 賀 正	市 長	王 高 鵬
	松本市議会		廊坊市人民代表大会常務委員会
議 長	百 瀬 常 雄	主 任	任 聯 飛

4 提携・交流団体

年 月	松 本 市	廊 坊 市
平成 8年 7月	並 柳 小 学 校	第 五 小 学 校
平成 8年 7月	開 成 中 学 校	第 六 中 学 校
平成 8年 11月	相 澤 病 院	市 人 民 病 院
平成 9年 3月	清 水 中 学 校	第 二 中 学 校
平成 9年 7月	さ さ べ 幼 稚 園	第 二 幼 稚 園
平成 12年 10月	寿 小 学 校	第 十 二 小 学 校

5 松本市廊坊市友好提携委員会概要

廊坊市との交流事業等をより円滑に運営するため、平成10年10月に廊坊市からの第2次公式公式訪問団の来松にあわせ、設立されました。

同年夏に起こった長江大洪水に対しては、廊坊市も支援活動を行っていたことから、設立間もない提携委員会からも、義援金の送付を行い、復興に貢献をしました。

両市の交流促進のため、写真展や音楽会など様々な事業を実施しています。

また、平成12年から隔年で提携委員会主催となる市民訪問団を組織し、廊坊市を訪問しています。平成24年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され、「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降、廊坊部会として活動しています。

部会員数 : 個人会員21 団体会員6 (令和6年1月現在)

6 交流事業

(1) 公式訪問団

廊 坊 市 へ			松 本 市 へ		
平成 7年	28名	第 1 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成 8年	13名	第 1 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成 9年	34名	第 2 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成10年	6名	第 2 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成11年	36名	第 3 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成12年	11名	第 3 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成13年	37名	第 4 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成14年	10名	第 4 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成15年	30名	第 5 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成16年	10名	第 5 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成17年	37名	第 6 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成18年	7名	第 6 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成20年	13名	第 7 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成19年	10名	第 7 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成22年	17名	第 8 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成21年	6名	第 8 次 公 式 親 善 訪 問 団
平成27年	14名	第 9 次 公 式 親 善 訪 問 団	平成23年	6名	第 9 次 公 式 親 善 訪 問 団
計 232名			計 79名		

(2) 市民訪問団

廊 坊 市 へ			松 本 市 へ		
平成 7年	20名	松 本 法 人 会	平成 8年	5名	医 学 交 流 訪 日 団
平成 8年	16名	地 域 開 発 研 究 会	平成10年	6名	市 民 団
平成 8年	4名	相 澤 病 院	平成10年	6名	市 民 団
平成 8年	14名	運 を 掴 む	平成11年	4名	経 済 交 流 訪 日 団
平成 8年	43名	松 本 日 中 友 好 協 会	平成11年	5名	学 校 訪 問 団
平成 9年	21名	松 本 ゲ ー ト ボ ー ル 協 会	平成13年	2名	世 界 岳 都 都 市 会 議
平成 9年	8名	松 本 卓 球 連 盟	平成20年	8名	医 療 交 流 団
平成 9年	46名	才 能 教 育 研 究 会	平成22年	6名	親 善 訪 問 団
平成10年	8名	市 民 訪 問 団	平成24年	6名	教 育 シ ン ポ ジ ウ ム 関 係 者
平成12年	5名	市 民 訪 問 団	平成26年	6名	廊 坊 市 人 民 医 院
平成12年	10名	松 本 日 中 友 好 協 会	平成30年	4名	県 日 中 友 好 都 市 中 学 生 卓 球 交 流 大 会
平成12年	35名	市 民 訪 問 団	令和5年	3名	県 日 中 友 好 都 市 中 学 生 卓 球 交 流 大 会
平成12年	28名	第 1 回 提 携 委 員 会			
平成12年	4名	市 民 訪 問 団			
平成13年	18名	松 本 日 中 友 好 協 会			
平成13年	21名	市 民 訪 問 団			
平成14年	39名	第 2 回 提 携 委 員 会			
平成16年	36名	第 3 回 提 携 委 員 会			
平成18年	29名	第 4 回 提 携 委 員 会			
平成21年	19名	第 5 回 提 携 委 員 会			
平成24年	7名	日 中 卓 球 交 歓 大 会			
平成29年	4名	日 中 卓 球 交 歓 大 会			
平成30年	15名	松 本 日 中 友 好 協 会			
令和元年	8名	廊 坊 市 友 好 都 市 卓 球 交 歓 大 会			
計 458名			計 61名		

(3) 研修生

松 本 市 へ		
平成10年	5月	4名 (農業 2名、医療 2名)
平成11年	5月	4名 (農業 2名、行政 2名)
平成12年	5月	4名 (農業 2名、医療 2名)
平成13年	5月	4名 (農業 2名、接客 2名)
平成14年	5月	4名 (医療 2名、接客 2名)
平成15年	7月	2名 行 政
平成16年	5月	2名 農 業
平成17年	6月	2名 接 客
平成21年	5月	3名 (行政 1名、接客 2名)
計 29名		

7 交流の歴史

(1) 廊坊市へ

年	月	主 な 内 容
平成 7年	7月	7～11日、有賀市長を団長とする第1次「友好都市廊坊市公式親善訪問」一行28名が廊坊市を公式親善訪問し、議会の表敬訪問、そして学校や工場など市内視察や市民との交流を行い、各所で熱烈歓迎を受けた。
平成 7年	9月	松本市を中心に活動している「中国語を学ぶ会」の有志4名が、9月16日廊坊市を表敬訪問し、民間レベルでの交流を深めた。
平成 7年	9月	キッセイ薬品工業の神澤邦雄会長を団長に、百瀬常雄市議会議員を特別顧問にした(社)松本法人会一行20名が22日～28日、松本平の民間経済団体としては初めて廊坊市を訪問した。
平成 8年	5月	19～20日、第2次松本市民間訪問団(地域開発研究会)16名が訪問した。
平成 8年	6月	21～23日、第3次松本市民間訪問団(相澤病院)4名が訪問した。
平成 8年	9月	19～20日、第4次松本市民間訪問団(運を掴む)14名が訪問した。
平成 8年	11月	15～16日、第5次松本市民間訪問団(松本日中友好協会)43名が訪問した。
平成 9年	5月	25～26日、第6次松本市民間訪問団(松本ゲートボール協会)21名が訪問した。
平成 9年	7月	11～15日、松村助役を団長に、松本市第2次廊坊市公式親善訪問団一行34名が訪問。研修生の相互受入に関する協定等を締結した。
平成 9年	8月	23～25日、第7次松本市民間訪問団(松本卓球連盟)8名が訪問した。
平成 9年	10月	8～9日、第8次松本市民間訪問団(才能教育研究会)46名が訪問した。
平成 10年	10月	24～28日、萩原社会部長を団長とした河北省主催経済交流・合作商談会松本市派遣代表団一行8名が訪問した。(第9次松本市民間訪問団)
平成 11年	10月	11～16日、有賀市長を団長に松本市第3次廊坊市公式親善訪問団36名が友好提携5周年を記念して訪問した。
平成 12年	3月	20～23日、友好提携5周年を記念して桜を贈呈するために、松村助役を団長に5名が訪問した。
平成 12年	10月	6～9日、第12次松本市民間訪問団(西経会30周年記念)35名が訪問した。
平成 12年	10月	24～28日、提携委員会として初めての訪問事業として、百瀬常雄会長を団長に、28名が訪問した。(第13次松本市民間訪問団)
平成 12年	12月	20～24日、第14次松本市民間訪問団4名が訪問した。
平成 13年	3月	13～17日、第15次松本市民間訪問団(松本日中友好協会20周年記念)18名が訪問した。
平成 13年	7月	2～5日、第16次松本市民間訪問団(JA松本ハイランド役員研修)21名が訪問した。
平成 13年	10月	22～27日、萩原助役を団長に松本市第4次廊坊市公式親善訪問団37名が訪問した。
平成 14年	10月	10月28日～11月1日、百瀬常雄会長を団長に、2回目の提携委員会主催の訪問事業として39名が訪問した。

年 月	主 な 内 容
平成 15年 10月	17～23日、有賀市長を団長に松本市第5次廊坊市公式親善訪問団30名が訪問した。
平成 16年 10月	11～16日、百瀬常雄会長を団長に、3回目の提携委員会主催の訪問事業として36名が訪問した。
平成 17年 10月	10～15日、菅谷市長を団長に松本市第6次公式親善訪問団37名が訪問した。11日には廊坊市人民公園に友好提携10周年を記念し、桜の苗木100本を植樹した。
平成 18年 10月	16～20日、百瀬常雄会長を団長に、4回目の提携委員会主催の訪問事業として29名が訪問した。
平成 19年 7,8月	7月30日～8月6日、日中国交正常化35周年を記念した日中友好都市小学生卓球交歓大会が行われ、松本市と廊坊市の合同チームが参戦し、決勝トーナメント3位に入賞した。
平成 20年 10月	9～15日、坪田副市長を団長に松本市第7次公式訪問団13名が訪問した。
平成 21年 10月	12～16日、百瀬常雄会長を団長に、5回目の提携委員会主催の訪問事業として19名が訪問した。
平成 22年 6月	6月28日～7月1日、坪田副市長を団長に松本市第8次公式訪問団17名が訪問した。
平成 24年 8月	19日～21日、日中国交正常化40周年を記念し北京市で開催された日中友好都市中学生卓球交歓大会へ選手団7名を派遣、廊坊市と合同でブロック優勝をした。
平成 27年 11月	23日～28日、菅谷市長を団長に提携20周年を記念し、松本市第9次公式訪問団14名が訪問した。
平成 29年 8月	4日～6日、日中国交正常化45周年を記念し北京市で開催された日中友好都市中学生卓球交歓大会へ選手団4名を派遣、廊坊市と合同のチームで試合に臨んだ。
平成 30年 9月	5日～8日、日中平和友好条約締結40周年記念事業として、松本市日中友好協会相澤孝夫会長を団長とする一行15名が廊坊市を訪問した。
令和 元年 7月	7月28日～31日、廊坊市主催で初開催される友好都市卓球交流大会へ選手団8名を派遣、廊坊市と合同チームで参加し、好成績を収めた。
令和 3年	友好提携25周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。

(2) 松本市へ

年 月	主 な 内 容
平成 8年 4月	20～24日、廊坊市医学交流訪日団（第1次民間交流訪日団）5名が来松した。
平成 8年 7月	2～9日、張成起中国共産党廊坊市委員会書記を団長に第1次廊坊市公式親善訪問団一行13名が来松した。
平成 10年 2月	12～14日、第2次民間交流訪日団6名（長野オリンピック視察団）が来松した。
平成 10年 10月	4～16日、陳百旺人民代表大会常務副主任を団長に第2次廊坊市公式親善訪問団一行6名が来松した。
平成 10年 11月	18～19日、第3次民間交流訪日団6名が来松した。
平成 11年 6月	2～3日、廊坊市経済交流訪日団4名が来松した。
平成 11年 8月	4～9日、廊坊市第二中学校の副校長及び生徒5名が来松。友好提携校の清水中学校を訪問し、友好を深めた。

年 月	主 な 内 容
平成 12年 10月	9～12日、王学軍廊坊市中国共産党委員会書記を団長に第3次廊坊市公式親善訪問団一行11名が来松した。
平成 13年 10月	6～10日、薛伯昌廊坊市政协商會議主席他1名が、世界岳都都市會議と併せて開催された姉妹都市交流会のため来松した。
平成 14年 10月	16～20日、張国斌廊坊市政府高級經濟顧問を団長に第4次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。
平成 16年 9月	17～20日、楊新建廊坊市委員会副書記を団長に第5次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。
平成 18年 10月	8～9日、王愛民廊坊市人民政府市長を団長に第6次廊坊市公式親善訪問団一行7名が来松した。
平成 19年 6月	22～23日、第50回全日本花いっぱい松本大会（第6回世界大会）にあわせ、王増力中国共産党廊坊市委員会書記を団長に第7次廊坊市公式親善訪問団一行10名が来松した。
平成 20年 1月	17～18日、呉立法中国共産党廊坊市委員会常務委員兼廊坊市副市長を団長とする、廊坊市医療交流団一行8名が来松した。
平成 21年 5月	28～30日、范永録中国共産党廊坊市委員会常務委員を団長に第8次廊坊市公式親善訪問団一行6名が来松した。
平成 22年 8月	26、27日、廊坊市外事弁公室蘇副主任を団長とする親善訪問団一行6名が来松した。
平成 23年 9月	9月30日～10月1日、廊坊市人民政府、饒 貴華（じょうきか）副市長を団長とする親善訪問団一行6名が来松した。
平成 24年 7月	21日、教育シンポジウムの開催のため、廊坊市の教育局、友好提携小中学校4校教員6名が松本日中友好協会の交流する葫蘆島市の教育関係者6名とともに来松した。
平成 25年 5月	11日、程永華（ていえいか）大使が来松、菅谷市長と懇談、県営松本空港、上高地等を視察した。
平成 26年 5月	9日、駐日中国大使夫人 汪婉（おうえん）参事官が来松、坪田副市長と懇談、講演等を行った。
平成 26年 9月	30日、駐日中国大使館の韓志強（かんしきょう）公使一行7名が来松、坪田副市長と懇談、市内視察を行った。
平成 27年 9月	26日、公益社団法人 日中友好協会と駐日中国大使館が共催する日中友好をテーマにした秋季セミナーで程永華（ていえいか）駐日中国大使一行40名が来松、松本市長、副市長が出席した。
平成 30年 8月	16日～20日、長野市で開催される卓球交流大会に廊坊市選手団4名が来松、「松本市・廊坊市チーム」として参加した。
令和 3年	友好提携25周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。
令和 5年 8月	17日～21日、長野市で開催される卓球交流大会に廊坊市選手団3名が来松、「松本市・廊坊市チーム」として参加した。

(3) 研修生

年	月	主 な 内 容
平成 10年	5月	平成9年に締結した協定に基づき、13日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協で、医療2名は相澤病院でそれぞれ6カ月間の研修をした。
平成 11年	5月	13日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協で6カ月間、行政2名は松本市役所で4カ月間の研修をした。
平成 12年	5月	24日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協と市農協で、医療2名は相澤病院でそれぞれ6カ月間の研修をした。
平成 13年	5月	23日に研修生4名が来松し、農業2名は松本ハイランド農協と市農協、接客2名はホテルブエナビスタでそれぞれ6カ月間の研修をした。
平成 14年	5月	22日に研修生4名が来松し、医療2名は相澤病院で、接客2名はホテルブエナビスタでそれぞれ6カ月間の研修をした。
平成 15年	7月	22日に研修生2名が来松し、行政2名が松本市役所で4カ月間研修した。 (SARSのため来松が2カ月延期)
平成 16年	5月	26日に研修生2名が来松し、農業2名が松本ハイランド農協と市農協で6カ月間の研修をした。
平成 17年	6月	24日に研修生2名が来松し、接客2名がホテルブエナビスタで6カ月間の研修をした。
平成 21年	5月	20日に研修生3名が来松し、行政1名が松本市役所で接客2名がホテルブエナビスタで6カ月間の研修をした。

(4) その他

年	月	主 な 内 容
平成 10年	10月	6日、松本市廊坊市友好提携委員会設立。(15団体 199名)また、長江流域等大洪水の義援金2,548,689円を廊坊市を通して被災地に贈呈した。

グリンデルワルト村の概要・市との交流

スイス連邦ベルン州グリンデルワルト村との姉妹都市提携は、昭和47年4月20日の旧安曇村との姉妹提携がきっかけです。平成17年4月1日に松本市と旧安曇村とが合併したことを受け、合併の合意事項である「姉妹都市となっている場合は、相手都市の意向を確認し、新市の姉妹都市とする」との調整方針に基づき、平成17年5月16日、新たに松本市との姉妹都市交流事業を継続していくことになりました。

長年の友好関係を引継ぎ、今後は国際観光などの分野でさらなる交流の発展が望まれています。

1 都市概要

A 人 口	約4,000人													
B 面 積	約172km ²													
C 平均標高	1,034m													
D 時 差	－7時間（冬－8時間）													
E 距 離	約9,700km													
F 気 候	(気温=℃、降水量=mm)													
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		-6.4	-5.0	-1.4	1.9	5.8	10.7	13.1	13.3	9.8	6.0	-0.9	-5.3	3.5
最 低 気 温		-13.0	-12.7	-9.1	-5.6	-1.8	2.5	4.7	4.9	1.6	-2.2	-7.5	-11.5	-4.1
降 水 量		145	128	135	133	157	172	191	173	142	137	163	159	153
G 主 な 産 業	観光													
H 特 産 物	酪農製品													
I 村 長	ベアート・ブッヒャー (Beat Bucher) 氏、2020.1～													

2 提携理由など（旧安曇村の提携当時）

- (1) 国際的に有名なアルプスを控えたグリンデルワルト村と姉妹提携を結び、教育、文化、産業、観光及びスキー技術の交流をもとに相互理解を高めつつ、平和で自然を愛する住民の福祉を増進させ、あわせて国際親善に役立てることとする。
- (2) 冬季札幌オリンピックの際、スイスのノルディック種目の監督として来日したローランドルーディン氏（グリンデルワルト村のリフト会社社長）の意向をうけた、当時の日本交通公社副社長 兼松 学氏の紹介による。
- (3) 地域内に国際的に有名なアルプスを抱えており、共に山岳観光とスキーの自治体であること、また人口や予算規模も同程度であり、自然に恵まれた景観を大切にしていること。

3 合意書



合意書内容：

日本国長野県松本市とスイス連邦ベルン州ベルナーオーバーラント グリンデルワルト村とは、引き続き姉妹都市としての交流に合意することを光栄とし、友好と文化を基盤に、環境・教育・観光など各分野の相互の協力を推進して、両国及び世界の平和と繁栄に貢献します。

平成17年5月16日

松本市長
菅谷 昭
松本市議会議長
渡辺 聡

グリンデルワルト村長
ドレス・スチューダー
グリンデルワルト村書記長
フリッツ・ローナー

4 松本市グリンデルワルト村姉妹提携委員会概要

グリンデルワルト村との姉妹都市交流をさらに深めていくため、行政・関係団体及び市民が一体となり、国際交流を推進することを目的に、平成17年10月24日に設立しました。

平成24年4月にカトマンズ市、廊坊市、グリンデルワルト村提携委員会が統合され、「松本市海外都市交流委員会」が発足しました。以降、グリンデルワルト部会として活動しています。

部会員数 ： 個人会員22 団体会員8 (令和6年1月現在)

5 交流事業

(1) 公式訪問団

グリンデルワルト村へ(合併前)			安曇村へ(合併前)		
昭和50年	27名	公式訪問団	昭和49年	5名	公式訪問団
昭和57年	11名	10周年記念訪問団	昭和52年	17名	公式訪問団
平成4年	70名	20周年記念訪問団	昭和62年	26名	15周年記念訪問団
平成14年	57名	30周年記念訪問団	平成4年	35名	20周年記念訪問団
			平成9年	25名	25周年記念訪問団
			平成14年	29名	30周年記念訪問団
計 165名			計 137名		
グリンデルワルト村へ(合併後)			松本市へ(合併後)		
平成18年	40名	公式訪問団	平成17年	25名	公式訪問団
平成23年	25名	公式訪問団	平成19年	14名	市制施行100周年記念式典
平成26年	41名	公式訪問団	平成22年	20名	公式訪問団
平成29年	23名	公式訪問団	平成26年	31名	公式訪問団
			平成29年	26名	公式訪問団
			令和4年	17名	公式訪問団
計 129名			計 133名		
総計 294名			総計 270名		

(2) 市民訪問団

グリンデルワルト村へ(合併前)			安曇村へ(合併前)		
平成7年	20名	市民訪問団	平成5年	29名	市民
平成9年	31名	市民訪問団	平成6年	12名	市民
平成14年	14名	乗鞍スキークラブ	平成12年	10名	市民
平成15年	15名	アルプホルン愛好会	平成12年	23名	市民
計 80名			計 74名		
グリンデルワルト村へ(合併後)			松本市へ(合併後)		
平成21年	20名	提携委主催第1回親善訪問	平成24年	5名	役場・観光局関係者
平成25年	30名	松本ヒマラヤ友好会	平成25年	5名	役場・観光局関係者
			平成26年	4名	役場・観光局関係者
			平成27年	6名	役場・観光局関係者
			平成28年	2名	観光局関係者
			令和4年	4名	観光局関係者
計 50名			計 26名		
総計 130名			総計 100名		

(3) 学生交流

グリンデルワルト村へ(合併前)			松本市へ		
昭和60年	17名	第1回中学生派遣事業			
昭和63年	19名	第2回中学生派遣事業			
平成3年	17名	第3回中学生派遣事業			
平成6年	18名	第4回中学生派遣事業			
平成9年	17名	第5回中学生派遣事業			
平成12年	17名	第6回中学生派遣事業			
平成15年	17名	第7回中学生派遣事業			
計 122名			計 0名		
グリンデルワルト村へ(合併後)			松本市へ(合併後)		
平成18年	14名	第8回中学生派遣事業	平成19年	10名	中学生ホームステイ事業
平成21年	22名	中学生ホームステイ訪問事業	平成28年	27名	中学生ホームステイ事業
平成24年	22名	中学生ホームステイ訪問事業	令和元年	30名	中学生ホームステイ事業
平成27年	27名	中学生ホームステイ訪問事業	令和5年	28名	中学生ホームステイ事業
平成30年	22名	中学生ホームステイ訪問事業			
計 107名			計 95名		
総計 229名			総計 95名		

6 交流の歴史

(1) グリンデルワルト村へ（合併前）

年 月	主 な 内 容
昭和 50年 6月	13～22日、福島村長一行27名が、グリンデルワルト村を公式訪問した。
昭和 57年 6月	14～22日、姉妹都市提携10周年を記念して、助役一行11名がグリンデルワルト村を公式訪問した。
昭和 60年 5月	31日、村の中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を公式訪問した。これを第1回とし、以後3年毎に継続して訪問することとした。
昭和 63年 4月	13日、乗鞍スキークラブ一行がグリンデルワルト村を親善訪問した。両校のスキー学校が姉妹提携をした。
昭和 63年 5月	29日、第2回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行19名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 3年 5月	31日、第3回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 4年 6月	4日、姉妹提携20周年を記念して、村長ほか一行70名がグリンデルワルト村を親善訪問した。
平成 4年 7月	23日、スイス政府観光局が首都ベルンの連邦議事堂わきに世界の石を集めて作る『石の庭園』に、日本の代表として、安曇村の乗鞍岳と島ヶ谷の石を贈ることになり、いがやレクリエーションランドで受渡し式を挙行了した。
平成 4年 9月	20日、除幕式に村長が招待を受けてベルンを訪問した。
平成 5年 9月	27日、松本アルプスライオンズクラブがグリンデルワルト村を訪問し、現地でグリンデルワルトライオンズクラブと姉妹提携した。
平成 6年 9月	4～11日、第4回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行18名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 7年 7月	7月29日～8月6日、歌手ラトルスネーク・アニーの呼びかけでグリンデルワルト村において『マザーマウンテンコンサート』が再度開催された。安曇村からも子供達による和太鼓とコーラスグループ12名、大人8名が参加し、子供たちはホームステイの受入れをしてもらった。
平成 8年 8月	8月30日～9月5日、グリンデルワルト村建立850年記念式典に参加するため、村長を含む一般村民総勢31名がグリンデルワルト村を親善訪問した。
平成 9年 8月	8月31日～9月6日、第5回中学生研修派遣事業を実施した。
平成 10年 7月	10日、『グリンデルワルト村と安曇村は姉妹村です』の歓迎看板をグリンデルワルト村へ送り、駅舎に掲げた。
平成 11年 1月	5日、スキーコーチ交流事業で、筒木香恵をグリンデルワルト村へ派遣した。
平成 12年 9月	2～8日、第6回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。

年 月	主 な 内 容
平成 13年 6月	6月30日～7月7日、姉妹提携30周年記念式典に参加するため、助役以下村民一行57名がグリンデルワルト村を親善訪問した。
平成 14年 4月	5～12日、「グリンデルワルトスキークラブ100周年式典」に乗鞍スキークラブ員14名が参加した。
平成 15年 6月	6月20日～10月1日、「世界最大のアルプホルンの集い」に安曇村アルプホルン愛好会一行15名が参加した。
平成 15年 9月	1～6日、第7回中学生研修派遣事業を実施し、中学生12名を含む一行17名がグリンデルワルト村を訪問した。

(2) 安曇村へ（合併前）

年 月	主 な 内 容
昭和 49年 3月	20日、グリンデルワルト村から一行5名の公式訪問を受けた。
昭和 52年 5月	8日、グリンデルワルト村から、ハンスベルネット村長一行17名の公式訪問を受け、安曇小中学校体育館で記念式典を開催した。
昭和 62年 5月	グリンデルワルト村との姉妹提携15周年記念イベント『アルプス賛歌』を、乗鞍高原を中心に開催した。
昭和 62年 10月	3日、姉妹提携15周年を記念して、グリンデルワルト村から村長ら一行26名の公式訪問を受け、安曇小中学校で記念式典を挙行了した。
平成 4年 10月	10月25日～11月5日、姉妹提携20周年を記念して、グリンデルワルト村からA. ザイラー村長を含む一行35名の公式訪問を受けた。
平成 5年 8月	4～10日、信州博覧会の『世界の子供達と歌う マザーマウンテンコンサート』に出演するため、グリンデルワルト村の子供23名と大人6名が来村した。
平成 6年 10月	27～30日、安曇村開村120年にあたりボーレン副村長一行12名が来村した。上高地や涸沢へ登山した後、集落センターで開かれた記念式典に出席した。
平成 9年 4月	26～28日、姉妹提携25周年記念式典に出席するため、ボーレン副村長一行25名が来村した。上高地開山祭に参加した後、乗鞍観光センターで開催された式典で友好を深めた。
平成 10年 1月	1月31日～3月30日、スキーコーチ交流事業でレナーテ・リンチ、カリン・カウフマンの2名が来村した。
平成 11年 1月	1月8日～3月30日、スキーコーチ交流事業でマリアンネ・エッガー、スザンネ・チャンフの2名の女性が来村した。
平成 12年 5月	19～20日、Wアルプスの集いが東京で開催され、ボーレン村長以下10名が来村した。上高地アルペンホテルで歓迎会を開催した。
平成 12年 10月	28～31日、村民コンサート出演のため子供コーラス16名と大人7名が来村し、村内6家庭にホームステイした。
平成 14年 9月	9月29日～10月1日、姉妹提携30周年記念式典に出席するためボーレン村長一行29名が公式訪問し、乗鞍観光センターで式典を開催した。

(3) その他(合併前)

年 月	主 な 内 容
昭和 62年 8月	3～8日、グリンデルワルト村との姉妹提携15周年記念イベント『アルプス賛歌』を乗鞍高原を中心に開催した。また『安曇村アルプス夏期大学』や『瀬沢音楽祭』などがNHKテレビで全国放映された。
平成 15年 6月	11日、Wアルプスの集いが東京で開催され、グリンデルワルト村の新旧観光局長、安曇村長ほかに参加した。
平成 16年 5月	13日、Wアルプスの集いが東京で開催され、グリンデルワルト村の観光局長、スイス政府観光局東京支局長、村長ほかに参加した。この集いに先立ち、在日スイス大使館が集いの参加者を昼食に招待した。

(4) グリンデルワルト村へ(合併後)

年 月	主 な 内 容
平成 18年 7月	3日～8日、菅谷市長を団長とする一行40名が姉妹都市交流の継続を確認してから初めてグリンデルワルト村を公式訪問した。
平成 18年 9月	4～9日、第8回中学生研修派遣事業を実施し、安曇地区の中学生12名を含む一行14名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 21年 6月	6月26日～7月1日、小林銀一会長を団長として、提携委員会主催第1回親善訪問団一行20名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 21年 8月	8月30日～9月4日、第1回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 23年 8月	19日～24日、菅谷市長を団長に市民訪問団を組織し、一行25名がグリンデルワルト村を訪問した。シュラッピー村長から東日本大震災への義援金3万5千スイスフラン(約300万円)を託された。
平成 24年 9月	3日～8日、第2回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、松本市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 26年 7月	3日～10日、菅谷市長を団長に公式訪問団41名がグリンデルワルト村を訪問した。(日本スイス国交樹立150周年記念)
平成 27年 9月	14日～19日、第3回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、白骨地区訪問団と合同で市内の中学生25名を含む一行27名がグリンデルワルト村を訪問した。
平成 29年 7月	6日～12日、菅谷市長を団長に公式訪問団23名がグリンデルワルト村を訪問した。(姉妹都市提携45周年記念)
平成 30年 9月	10日～15日、第4回グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問事業を実施し、市内の中学生20名を含む一行22名がグリンデルワルト村を訪問した。
令和 4年	姉妹提携50周年訪問は、新型コロナウイルスの世界的大流行により中止した。

(5) 松本市へ(合併後)

年 月	主 な 内 容
平成 17年 5月	16～18日、旧安曇村が松本市に編入合併されたことを受け、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行25名が来松し、交流の継続を確認する合意書に調印した。
平成 19年 4月	4月30日～5月2日、松本市の市制施行100周年を記念し、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行14名が来松し、記念式典等に参加した。
平成 19年 5月	5～10日、グリンデルワルト村中学生ホームステイの受入れを行い、中学生6名を含む一行10名が安曇地区等でホームステイや地元の中学生との交流を行った。
平成 21年 11月	4日、日本語観光案内所の安東夫妻が来松し、市長を表敬した。
平成 22年 10月	1日～3日、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行20名が来松した。
平成 24年 5月	19日～21日、シュラッピー村長を団長に一行5名が来松した。
平成 25年 11月	11日～12日、シュラッピー村長を団長に一行5名が来松した。
平成 26年 9月	9月30日～10月4日、日本スイス国交樹立150周年を記念し、グリンデルワルト村公式親善訪問団一行31名が来松し、記念式典等に参加した。

年 月	主 な 内 容
平成 26年 11月	11月29日～12月2日、シュラッピー村長を団長に一行4名が来松した。
平成 27年 11月	27日～29日、シュラッピー村長を団長に一行6名が来松した。
平成 28年 5月	10日～14日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団27名（中学生21名、引率6名）が来松、ホームステイのほか鉢盛、安曇、大野川中学校で交流を行った。
平成 29年 4月	25～28日、姉妹都市提携45周年を記念し、クリスチアン・アンデレック村長を団長に26名が来松した。乗鞍での交流や、上高地開山祭への出席等を行った。
令和 元年 5月	8日～12日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団30名（中学生25名、引率5名）が来松、ホームステイのほか安曇、大野川中学校を訪問、交流を行った。
令和 4年 10月	18～21日、姉妹都市提携50周年を記念し、ブッヒャー・ベアート村長を団長に17名が来松した。松本市街地や上高地の視察等を行った。
令和 5年 5月	14～18日、グリンデルワルト村中学生ホームステイ訪問団28名（中学生25名、引率5名）が来松、ホームステイのほか、安曇、大野川中学校で交流を行った。

(6) その他（合併後）

年 月	主 な 内 容
平成 17年 5月	20日、第6回「Wアルプスの集い」が東京、及び妙高で開かれ、アルプスに縁の深い松本市、妙高市、スイスのグリンデルワルト村、ツェルマット村の2市2村が集い、PRを行なった。本市からは助役、観光戦略本部長が参加した。
平成 17年 10月	10月29日～12月23日まで開催された松本市美術館特別展「スイス・スピリッツ」展に、グリンデルワルト村姉妹都市紹介コーナーを設置して宣伝を行なった。オープン記念式典には駐日スイス大使なども参加した。
平成 18年 5月	17日、第7回「Wアルプスの集い」が東京で開かれ、前回に引き続き2市2村が集い、PRを行なった。本市からは、観光戦略本部長が参加した。
平成 19年 1月	15～20日、第25回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市チーム（2名）が参加した。
平成 20年 1月	17～21日、第22回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム（4名）が参加した。
平成 21年 1月	18～24日、第27回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市代表チーム（2名）が参加した。
平成 22年 1月	21～25日、第24回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム（4名）が参加した。
平成 23年 1月	17～22日、第29回世界雪まつり雪像づくり大会に松本市代表チーム（2名）が参加した。
平成 24年 11月	14日、前日王滝村へ視察に訪れたウルス・ブーヘル駐日スイス大使が姉妹提携の縁から来松し市長表敬訪問をした。
平成 25年 2月	7日、平成26年に日本とスイスが国交を樹立して150年目を迎えることから、記念事業の一環として駐日スイス大使をお招きして、あがたの森文化会館講堂で講演会を開催した。
平成 26年 10月	1日、日本スイス国交樹立150周年記念グリンデルワルト村公式訪問団の歓迎晩餐会へ、来賓としてピーター・ネルソン駐日スイス公使をお招きした。
平成 28年 1月	21～25日、第30回国宝松本城氷彫フェスティバルにグリンデルワルト村代表チーム（2名）が参加した。
平成 28年 8月	9～12日、「山の日」記念式典へ、姉妹都市代表として観光局エッカー総監、ブルーノ局長をお招きした。
平成 29年 11月	24～26日、「第7回山岳フォーラム」に出展するため、日本語観光案内所の安東所長が来松した。
令和 4年 5月	23～24日、スイスPRイベントに参加のため来日中のグリンデルワルト観光局長他3名が市長表敬訪問をした。

2 海外交流都市

高雄市の概要・市との交流

市民の健康の増進、福祉の向上、青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進するため、2015年7月14日（火）、台湾・高雄市の市政府関係者等を松本市へお迎えし、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」を締結しました。

1 都市概要

A 人 口	約277万人													
B 面 積	約2,952km ²													
C 平 均 標 高	200m													
D 時 差	-1時間													
E 距 離	約2,280km													
F 気 候	(気温=℃、降水量=mm)													
	月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間平均
最 高 気 温		22.9	23.8	26.4	29.1	31.3	32.1	32.9	32.5	32.0	30.7	27.7	24.1	28.8
最 低 気 温		14.0	15.1	17.5	21.2	25.7	25.7	26.4	26.0	25.3	23.0	19.6	15.6	21.3
降 水 量		17.3	28.1	38.5	79.5	173.6	371.5	357.7	395.1	178.0	27.8	16.7	14.4	141.5
G 主 な 産 業	化学材料、金属製品													
H 特 産 物	バナナ、ライチ、パイナップルなどの果物、海産物など													
I 市 長	陳 其邁 (チン キマイ) 氏、2020.8～													

2 覚書締結の理由など

2014年に、菅谷松本市長が高雄市を2回訪問し、陳 菊 (チン キク) 高雄市長との会談の中で、両市が前向きに交流を進めることに合意しました。

以来、交流に向けた協議を重ねてきましたが、市民の健康の増進、福祉の向上、青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進するため、覚書を締結しました。

3 覚書

高雄市與松本市 健康、福祉、教育領域交流備忘錄	松本市・高雄市 健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書
<p>中華民國高雄市與日本國長野縣松本市，為增進市民健康、提升社會福祉、培養身心健全的青少年而推動相互交流，就以下內容簽署備忘錄。</p> <p>1. 兩市將高齡化社會之因應對策視為重要課題，並就市民健康與社會福祉方面，進行廣泛且具體之交流及合作。</p> <p>2. 兩市積極推動教育交流。</p> <p>3. 本備忘錄上未規範之事項，可視需要由兩市共同協商決定。</p> <p>本備忘錄以中文及日文各繕2份，由兩市代表署名，兩種文字約本雙方各執1份。</p> <p>2015年7月14日</p> <p>高雄市 衛生局局長 <u>何啟功</u> 社會局局長 <u>姚雨靜</u> 教育局局長 <u>范巽綠</u></p> <p style="text-align: center;">見證人 高雄市委副书记 <u>吳宏謀</u></p>	<p>日本國長野縣松本市と中華民國高雄市は、市民の健康の増進・福祉の向上・青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進していくため、以下の内容で覚書を締結する。</p> <p>1. 両市は、高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する。</p> <p>2. 両市は、教育交流を積極的に推進する。</p> <p>3. この覚書に定めのない事項については、必要に応じて両市が協議のうえ、決定するものとする。</p> <p>上記覚書の締結を証するため、日本語及び台湾語により、本書2通を作成し、両市の代表者が署名のうえ、各代表者がその1通を保有するものとする。</p> <p>2015年7月14日</p> <p>松本市 市長 <u>菅谷昭</u></p> <p style="text-align: center;">立会人 高雄市委副书记 <u>吳宏謀</u></p> <p>高雄市 衛生局局長 <u>何啟功</u> 社會局局長 <u>姚雨靜</u> 教育局局長 <u>范巽綠</u></p>

覚書の内容：

日本國長野縣松本市と中華民國高雄市は、市民の健康の増進・福祉の向上・青少年の健全育成を目的として、相互の交流を推進していくため、以下の内容で覚書を締結する。

- 1 両市は、高齢社会への対応を重要課題とし、健康・福祉に関する施策の情報交換や研究を図り、具体的な協力を積極的に推進する。
- 2 両市は、教育交流を積極的に推進する。
- 3 この覚書に定めのない事項については、必要に応じて両市が協議のうえ、決定するものとする。

上記覚書の締結を証するため、日本語及び台湾語により、本書2通を作成し、両市の代表者が署名のうえ、各代表者がその1通を保有するものとする。

平成27年7月14日

松本市	高雄市
市長 菅谷 昭	衛生局 局長 何啟功
	社会局 局長 姚雨靜
	教育局 局長 范巽綠

立会人 高雄市 副市长 吳宏謀

4 交流の歴史

(1) 高雄市へ

年 月	主 な 内 容
平成 26年 3月	菅谷市長がトップセールスで高雄市と台南市を訪問、高雄市副市長と面会し、交流について意見を交わした。
平成 26年 5月	高雄市国際旅行博出展に伴い、坪田副市長が訪問、交流プログラムを提案した。
平成 26年 7月	松本市政策部長、美術館副館長、学校指導課が高雄市を訪問、中学生や美術館を切り口とした都市間交流を協議した。
平成 26年 10月	菅谷市長が陳菊高雄市長と会談し、中学生同士の教育交流を提案した。
平成 27年 1月	27日、松本市の健康福祉部長ほか5名が高雄市を訪れ、松本市が市内35地区36カ所の福祉ひろばで実施している「ふれあい健康教室」を高雄市の高齢者総合サービスセンターで開催した。
平成 29年 5月	11～15日、台湾への国際チャーター便の運航にあわせ、交流を更に進めるため市長を団長に公式訪問団を派遣した。高雄市では、健康福祉分野での交流や、中学校訪問、福祉・教育関係施設の視察等を行った。
令和 元年 7月	24～27日、菅谷市長を団長に医療関係者等健康福祉訪問団が高雄市を訪問し、健康・福祉分野における地域包括ケアシステムを核とした医療と介護の連携について情報交換を行い、高雄医学大学附属中和記念病院、高雄市立小港病院及び高雄市立大同病院等の視察をした。
令和 2年 1月	6～10日、赤羽教育長を団長、学校関係者及び松本市立中学校5校の表生徒一行25名が高雄市を訪問した。 高雄市教育局表敬のほか、高雄市大仁国民中学校、高雄市福誠中学校を訪問し、高雄市立図書館等を見学した。

(2) 松本市へ

年 月	主 な 内 容
平成 27年 7月	14日、高雄市呉宏謀（ゴコウボウ）副市長、教育局長ほか政府関係者等36名が松本市を訪れ、信州大学附属病院及び相澤病院を視察、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」を締結した。
平成 27年 12月	15～17日、高雄市立小港（シャオガン）病院の一行10名が信州大学医学部附属病院を視察研修するため訪問した。
平成 28年 3月	30日、長野県内の医療施設視察のため訪日した高雄市立小港病院の一行10名が来松し、相澤病院を視察した。
平成 28年 4月	2日、長野県内の医療施設視察のため訪日した陳菊市長ら28名が来松し、松本城本丸庭園で市長表敬を行った。
平成 28年 8月	17～19日、「健康・福祉・教育分野の交流に関する覚書」に基づき交流を進めている台湾高雄市新莊高級中学（高校）の生徒及び関係者60名が、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催期間にあわせ、音楽教育旅行として来松し、美術館中庭で演奏会を行ったほか、松商学園高校や松本大学との交流を行った。
平成 28年 11月	9～11日、高雄市社会局長ほか政府関係者2名が世界健康首都会議参加のため訪問、高雄市の福祉政策について講演を行った。 9～10日、高雄市立小港（シャオガン）病院の一行19名が信州大学医学部附属病院との覚書締結に向けた意見交換、視察研修、世界健康首都会議参加のため訪問した。
平成 29年 7月	4日、高雄市立小港病院が信州大学附属病院との覚書に基づき派遣した研修生ほか、小港病院関係者6名が来松し、菅谷市長を表敬した。

年 月	主 な 内 容
平成 29年 9月	2～5日、台湾高雄市教育局黄（コウ） 副局長はじめ、高雄市の小中高校生徒等で構成する訪問団65名が、セイジ・オザワ松本フェスティバルの開催期間にあわせて来松した。一行は、こども国際音楽会への参加や、旭町中学校での交流を行った。
平成 29年 11月	16～17日、高雄市立小港（シャオガン） 病院の候（ホウ） 院長、頼（ライ） 副院長を含む13名が、世界健康首都会議参加のため訪問、高雄市の先住民族に対する福祉の取り組みや、熱帯に特有の疾病などについて、展示紹介を行った。
平成 30年 8月	教育局張榮譽督学を団長に、教育局及び陽明国民中学校生徒など72名が音楽教育旅行で松本を訪れ、セイジ・オザワ松本フェスティバルの吹奏楽パレードや国宝松本城本丸庭園内での合同演奏会への出演、フェスティバル演奏の鑑賞や、地元高校生との交流演奏会等を行った。
平成 30年 11月	第8回世界健康首都会議で高雄市小港地区の医療、介護の総合型のしくみについて、高雄医学大学附属中和記念病院候院長、小港病院洪副院長から講演をいただき、意見交換した。
令和 元年 5月	2019年中学生交流事業として台湾高雄市立龍華国民中学校一行35名が来松し、松本市立旭町中学校を訪問した。旭町中の生徒は合唱、高雄市側中学生はフルート演奏や民族ダンスを行った。学校給食の試食後、サッカー交流をした。
令和 元年 10月	17～18日、第9回世界健康首都会議で高雄市医師会、高雄医学大学附属中和病院、大同病院等医療関係者一行18名が来松した。3高疾病（高血圧、高脂肪、高血糖）管理のインテリジェンス化-MENモード、慢性疾患患者への栄養教育のインテリジェンス化の紹介ブースを出展し、松本市医師会及び松本市立病院、相澤病院及び丸の内病院を視察した。
令和 5年 1月	29～31日、高雄医学大学医療視察団14名が来松し、市長表敬、松本大学、信州大学医学部附属病院を視察した。
令和 5年 10月	10月31日～11月1日、高雄市立陽明国民中学校一行34名が来松し、市長表敬後、松本立会田中学校を訪問し交流をした。学校給食を試食後、英語の授業に出席した。

3 便利情報

和暦西暦対応表

和 暦	西 暦
昭和 元年 (大正15年)	1926年
昭和 2年	1927年
昭和 3年	1928年
昭和 4年	1929年
昭和 5年	1930年
昭和 6年	1931年
昭和 7年	1932年
昭和 8年	1933年
昭和 9年	1934年
昭和10年	1935年
昭和11年	1936年
昭和12年	1937年
昭和13年	1938年
昭和14年	1939年
昭和15年	1940年
昭和16年	1941年
昭和17年	1942年
昭和18年	1943年
昭和19年	1944年
昭和20年	1945年
昭和21年	1946年
昭和22年	1947年
昭和23年	1948年
昭和24年	1949年
昭和25年	1950年
昭和26年	1951年
昭和27年	1952年
昭和28年	1953年
昭和29年	1954年
昭和30年	1955年

和 暦	西 暦
昭和31年	1956年
昭和32年	1957年
昭和33年	1958年
提携：ソルトレーク	
昭和34年	1959年
昭和35年	1960年
昭和36年	1961年
昭和37年	1962年
昭和38年	1963年
昭和39年	1964年
昭和40年	1965年
昭和41年	1966年
昭和42年	1967年
昭和43年	1968年
昭和44年	1969年
昭和45年	1970年
昭和46年	1971年
昭和47年	1972年
提携（安曇）：グリゲル	
昭和48年	1973年
昭和49年	1974年
昭和50年	1975年
昭和51年	1976年
昭和52年	1977年
昭和53年	1978年
昭和54年	1979年
昭和55年	1980年
昭和56年	1981年
昭和57年	1982年
昭和58年	1983年
昭和59年	1984年
昭和60年	1985年
昭和61年	1986年
昭和62年	1987年
昭和63年	1988年

和 暦	西 暦
平成 元年 (昭和64年)	1989年
提携：カトマンズ	
平成 2年	1990年
平成 3年	1991年
平成 4年	1992年
平成 5年	1993年
平成 6年	1994年
平成 7年	1995年
提携：廊坊市	
平成 8年	1996年
平成 9年	1997年
平成10年	1998年
平成11年	1999年
平成12年	2000年
平成13年	2001年
平成14年	2002年
平成15年	2003年
平成16年	2004年
平成17年	2005年
グリゲル（継続）	
平成18年	2006年
平成19年	2007年
平成20年	2008年
平成21年	2009年
平成22年	2010年
平成23年	2011年
平成24年	2012年
平成25年	2013年
平成26年	2014年
平成27年	2015年
提携：高雄市	
平成28年	2016年
平成29年	2017年
平成30年	2018年

和 暦	西 暦
令和 元年 (平成31年)	2019年
令和 2年	2020年
令和 3年	2021年
令和 4年	2022年
令和 5年	2023年
令和 6年	2024年
令和 7年	2025年
令和 8年	2026年
令和 9年	2027年
令和10年	2028年
令和11年	2029年
令和12年	2030年
令和13年	2031年
令和14年	2032年
令和15年	2033年
令和16年	2034年
令和17年	2035年
令和18年	2036年
令和19年	2037年
令和20年	2038年

和暦→西暦換算法

和暦（昭和）+ 1925

(例) 昭和60 + 1925 = 西暦1985

和暦（平成）+ 1988

(例) 平成29 + 1988 = 西暦2017

和暦（令和）+ 2018

(例) 令和 2 + 2018 = 西暦2020



松本市国際関係資料 令和5年度版

発行日 2024年(R6) 1月1日
発行 松本市
編集 住民自治局人権共生課国際交流担当
〒390-0811
長野県松本市中央1-18-1 Mウイング3階
TEL 0263(34)3220
内線 56222
FAX 0263(37)1153
MAIL kokusai@city.matsumoto.lg.jp